

# 第7回 日常診 多彩な取り組みと経験を交流

11月3日に開催した日常診療経験交流会ランチョンセミナーと各分科会について実行委員会から報告してもらった。



ランチョンセミナーは、大阪府保険医療協会副理事長で北原医院院長の井上美佐氏(守口市)に「認知症の患者と共に守口市における認知症カフェの取り組み」をテーマに講演いただいた。

井上氏は、年々増加の一途をたどっている認知症患者の対策において、自らの日々の診療と地域包括支援センターとの関わりの中で自身が認知症カフェを開催するに至ったと話された。カフェの開催場所には、自宅を改造して作っていたコミュニティスペースを提供し、毎月イベントを開催して楽しく交流していると報告された。

認知症カフェを始めて良かったことは①地域の高齢者が喜んだこと②認知症患者の介護者が

## ランチョンセミナー 院外での患者支援知れた

玉川尚美実行委員

でくれ③認知症患者の介護者が息抜きできる④サポーターやボランティアをしたい市民が活躍する場が⑤地域の高齢者とサポーター・ボランティアの繋がりによって自然な見守り体制ができた——こと話した。また、課題として①質を保つため、スタッフの定期的な研修②初期費用、維持費用がかかるため、自治体の補助③他地域のカフェや介護施設との連携——を挙げられた。

今後、「健康は健口」からテーマに歯科との連携を計画したいと話した。

井上氏の講演は、医療者として診察室以外での患者さんや家族の支援について、学ぶ良い機会となった。

### 第1分科会

## 職種を超え活発に意見交換

小山賢一 実行委員

第1分科会では歯科医師5氏のほかに、歯科衛生士とケアマネジャーからも発表してもらった。

養生活が左右されるとし、ケアマネ自身も医療知識を身に付ける必要性を強調した。

低所得者への無料低額診療事業に取り組んでいる田島診療所歯科(生野区)の三藤宏美氏(歯科衛生士)は、経済的理由で治療を受けることができなかった患者の症例を紹介しながら同事業の意義と問題点を報告した。必要な医療を保障する制度にもかかわらず、薬代や交通費がかかることを指摘し、国の不十分な貧困対策を現場から問題提起した。

5人の歯科医師からは、▽美体験を基にした親子での医院継承の利点や欠点、円滑に引き継ぐコツ(枚方市・小山賢一氏、小山栄三氏)▽熱中症対策としてのスポーツドリンクの誤りと経口補水液の活用(浪速区・豊田裕章氏)▽小児の萌出異常歯の治療例と矯正法(堺市・畑崎清孝氏)▽カンジダの培養検査と診断、治療薬の特徴(東大阪市・西川眞二氏)——について報告してもらった。



好評を得た分科会の様子  
=11月3日、保険医会館

### 第2分科会

## 舌機能訓練の効果など学ぶ

森啓実行委員

第2分科会では歯科医師6氏が発表した。

旧義歯調整で「デンチャースペース理論」に基づき義歯改造などの実践事例を報告した。通院困難で「咀嚼すること」をあきらめている患者の口腔機能を回復する意義を語った。

富本昌之氏(港区)は、舌の不良習癖をよめることで小児の開口や歯列不正を改善させる取り組みを報告した。マウスピースと筋機能訓練による改善事例を示し、患者・歯科医師双方が、改善できるという気持ちで継続できるかが大切だと述べた。

その他の発表は、▽東洋医学の「舌診断と治療法としての漢方薬の使用(八尾市・矢部あづさ氏)▽睡眠時無呼吸症候群を改善させるために「簡易検査装置」の使用と「問診重視」、独自開発の矯正装置を用いた治療実践(淀川区・池尻良治氏)▽訪問歯科体制を充足したが、入所施設やケアマネ、家族の意識といった壁に阻まれてきた経験を踏まえ、予防意識を通じた患者支援の在り方、介護保険の在り方を問題提起(吹田市・福原稔氏)▽VEの導入(西成区・渡邊充春氏)。

# 学びと食・文化の秋 旺盛に

大阪市西部地区  
認知症対応学ぶ

大阪市西部地区は「認知症の診断と患者・その家族への対応」を11月12日、保険医会館で開き、西側充宏氏(豊中市・西側こころクリニック院長)を講師に30人が参加した(写真・右上)。

講演では、①認知症の基礎知識②検査・診断③治療④患者・家族への対応方法⑤治療薬⑥地域ネットワークによる支援——について解説された。

西側氏は、「高齢化による『フレイル』を予防するためには栄養の摂取と口腔機能の維持・管理が重要で、歯科の果たす役割が大きい。ぜひ、割が非常に大きい。ぜひ地域のネットワークの中心となって取り組んでほしい」と強調した。

(港区・井村久史)

南河内地区  
点滴を相互実習

南河内地区は11月12日、歯科麻酔認定医の富本昌之氏(港区)を講師に「知っておきたい点滴注射技術の基本」をテーマに、血管確保を相互実習形式で取り組み、8人が参加した(写真・右下)。

日常臨床では採血や点滴を施す経験の機会が少なく血管確保は学生時代の実習以来という歯科医師は多い。講師の指導の下、参加者全員が輸液セットを使い静脈血管内に正しく注射針が刺入しているか、点滴筒内の生理食塩水の落下状況を確認しながら相互実習した。

強風による高波でクルーズは中止になった。

な街並を巡った。

きた区で、名前は石碑に刻まれている『真住み吉し、住吉(すみ)のえの国』が由来となった。

泉州地区  
天然迷宮歩く

泉州地区と堺・高石・和泉地区は11月23日、共催で文化企画「泉州野再発見ウォーク&クルージング」を開催し、10人が参加した。

車では入れない天然迷宮都市・さの町場(写真)

大阪府南部地区  
古地図で住之江

大阪府南部地区は11月18日、西俣稔氏を案内人に文化企画「古地図で迎える大阪 古代は海であった住之江を訪ねる」を開催し、会員・家族ら11人が明治時代の古地図を手にした歴史を見て歩いた。

南海・住吉大社駅の石碑の前で「住之江は昭和49年に住吉区から分区分し、大阪24区の最後区に

北河内地区  
舟・酒蔵・ジビエ

北河内地区は「秋の伏見で酒蔵のある町並みとジビエ料理を愉しむ」を11月12日に開き、会員・家族ら13人が参加した。

当日は、龍馬ゆかりの寺田屋や月桂冠大倉記念館、十石船(写真・左下)、御香神宮などをめぐり、昼食のジビエ(猟師)料理に舌鼓を打った。参加者から「ジビエ料理は初めて」などの感想が寄せられた。